

日本退職教職員協議会
各単会 会長様

日本退職教職員協議会
会長 西澤 清

沖縄県名護市長選挙に対する現地両退教支援について

新しい年を迎えました。本年もよろしくお願ひいたします。

1 月 22 日、通常国会が開会します。安倍首相の目論む「2020 年改憲」の行方を左右する、たいへん重要な局面を迎える国会となります。わたしたちは、日教組・平和フォーラム・戦争をさせない 1000 人委員会などとともに、安倍改憲を許さない運動に積極的にとりくみます。

読谷村で 8 日、攻撃ヘリコプター AH1 が不時着しました。その 2 日前の 6 日にも多用途ヘリ UH1 がうるま市に不時着したばかりです。一昨年 1 2 月には、名護市沿岸でオスプレイが着水大破し、昨年 10 月は東村で大型ヘリ CH53E が不時着炎上。12 月には普天間飛行場に隣接する普天間第二小学校の校庭に、重さ約 8 キロの窓を同型機が落としました。子ども達のすぐそばに。一つ間違えば県民を巻き込む惨事につながりかねない重大事案が続いています。

政府・小野寺防衛相は 9 日、マティス米国防長官に「点検整備の徹底などの抜本的な対策」を取るよう電話で要請しましたが、それだけで、米国は相変わらず飛行を直ちに再開しています。在沖米軍の全航空機の点検とその間の飛行停止を求める県当局の姿勢を全く無視しています。普天間第二小学校では、落下事故以降、運動場は使用中止のままです。昨年末、小学校への窓落下事故の再発防止を求めるべく上京した翁長雄志沖縄県知事に、安倍首相は会おうともしませんでした。

普天間基地所属のヘリは安全性がまったくもって確保されていません。普天間基地を撤去し、新たな基地を建設して移転しても、県民の安全が確保されることにつながるわけではありません。むしろ基地機能の強化から一層不安が増すだけです。

沖縄県名護市辺野古の米軍キャンプ・シュワブゲート前では、連日、新基地建設に反対する市民が抗議活動を続けています。海岸に延びる仮設道路建設資材を搬入する工事用車両は、座り込む市民を排除し、多い日で 200 台を越えてゲート内に入っています。さらに沖縄防衛局は、辺野古新基地建設用の石材を海路でキャンプ・シュワブの建設現場に搬入しはじめました。ゲート前の座り込みで滞っている陸路の搬入を補い、作業を加速する狙いがあります。この現地座り込みだけで新基地建設が止められるわけではありません。工事を遅らせる中で、日本の政治状況を変えなければなりません。

来る 1 月 28 日告示、2 月 4 日投開票で、沖縄県名護市長選挙が行われます。現職の稲嶺進氏（72 歳）は 3 期目を目指し、立候補します（社民、共産、社大、自由、民進推薦）。最大の争点となる辺野古移設問題について、稲嶺氏は「市民の命と暮らし、県民の誇りと尊

廠を守るために新基地は造らせない。名護の未来は私たちが決める。この問題に終止符を打つ審判を市民に問う選挙にしたい」と強調しています。

あわせて子育て環境の充実や基幹病院の設置、産業振興による経済発展などを政策の柱に掲げ、市独自の給付型奨学金制度の創設や世界自然遺産に関する体験型観光の推進、特区導入による名護漁港へのクルーズ船受け入れ、コミュニティーバス整備などを示しました。同市長選には新人で前市議の渡具知武豊氏（56歳）＝無所属、自民、公明推薦＝も立候補を表明しており、一騎打ちになる見通しです。

この市長選の結果は、今秋の沖縄県知事選、そして辺野古への新基地建設をめぐる情勢に大きな影響を与えることは間違いありません。

沖縄県・高退教は、名護市長選における「稲嶺進」さんの必勝を期して、全力でとりくんでいます。日退教は各単会のみなさまからの積極的な支援・応援を行うこととします。

【具体的とりくみ】

1 両退教への激励電、FAXを送ろう

名護市長選にとりくむ沖縄県退教、高退教事務局宛に、激励の手紙、FAX、寄せ書き等を送りましょう。

あて先 沖縄県退職教職員会（会長 仲村勝彦）
〒 900-0015 沖縄県那覇市久茂地3丁目9-23
FAX 098-863-2026

沖縄県高等学校障がい児学校退職教職員会（会長 喜友名稔）
〒 902-0061 沖縄県那覇市古島2丁目6-5 古島テラス内
FAX 098-885-3542

2 両退教へカンパを贈ろう

各単会事務局にお問い合わせください。

3 現地活動へのボランティアについて

現地でのボランティア活動を希望される会員の方は、各単会事務局へお問い合わせください。

4 沖縄と連帯する日退教第9次沖縄交流について（予定）

第9次交流は2018年4月23日（月）～24日（火）を予定しています。後日ご案内をいたします。

以上